

## 貸借対照表の見方

---

貸借対照表の見方について、構造を把握してもらうための概念図です。OHPシートまたは手配りシートとして、活用してください。

---

### ● インストラクション手順例

1) (OHP またはシートを参照しながら)

2) (貸借対照表の概略を説明後)

「貸借対照表の右側、『負債・純資産の部』を見てください。こちらは事業活動を行うために、どうやって資金を調達したかを表しています。

自前で調達した資金を『資本』、他人から借り入れた資金を『負債』といいます。

そして左側の『資産の部』は、調達した資金をどう使ったか、つまり運用のしかたを表しています。

そのまま現金として寝かせておくのも、1つの運用のしかたととらえます。

ですから『負債・純資産の部』の総額と『資産の部』の総額は、必ず一致します。

では、それぞれの内容について、もう少し詳しく見ていきましょう」。

3) 以降、シートに沿って説明する。

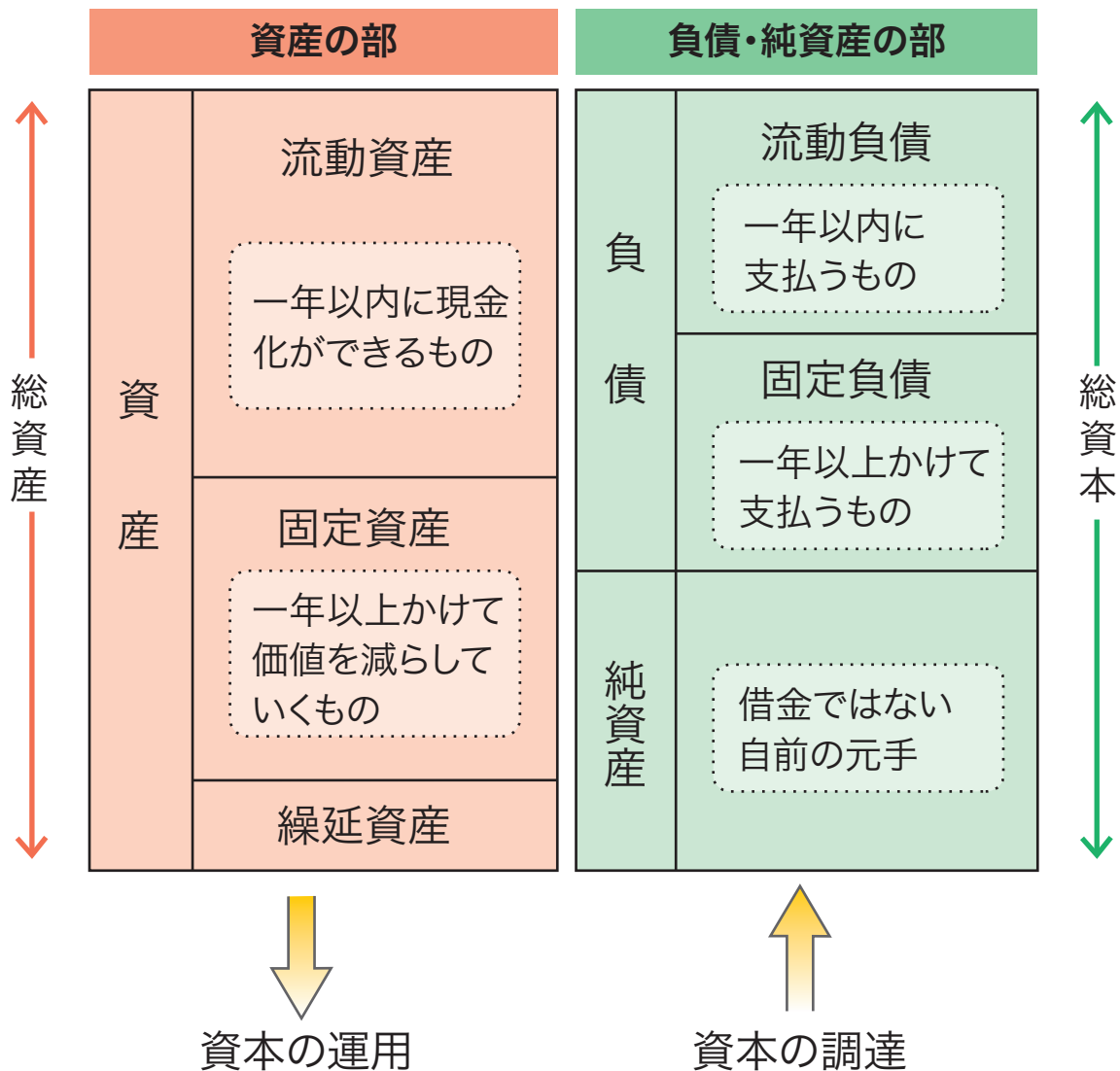
\* 必要に応じて、補足資料-1,2を参照。

## ■ 貸借対照表の見方



**貸借対照表**  
Balance Sheet (B/S)

期末時点の  
財産の状態



## ■ 補足資料 -1 : 貸借対照表 資産の部

### 資産の部

流動資産	

#### 1.流動資産

\* 1年以内に現金化できる資産。

- ・ 当座資産（現金預金、受取手形、売掛金、有価証券）
- ・ 棚卸資産（製品、仕掛品、原材料）

固定資産	

#### 2.固定資産

\* 1年以上長く会社に留まる資産。

- ・ 有形固定資産（建物、機械装置、車両運搬具、備品、土地など）
- ・ 無形固定資産（のれん、借地権、特許権、ソフトウェアなど）
- ・ 投資その他の資産（流動資産にならない投資有価証券、長期貸付金など）

繰延資産	

#### 3.繰延資産

\* 繰延資産には、創立費、開業費、株式交付費、社債発行費等、開発費があるが、支出した年度の費用にするか、資産に計上するかは、企業の選択に任されている。

## ■ 補足資料 -2 : 貸借対照表 負債・純資産の部

### 負債の部

	負債	流動負債

#### 4.流動負債

- \* 決算日から1年以内に返済期限の到来する負債。
- ・ 支払手形、買掛金、短期借入金、未払費用など

	負債	
		固定負債

#### 5.固定負債

- \* 決算日から1年以後に返済期限の到来する負債。
- ・ 長期借入金、社債、退職給付引当金など

### 純資産の部

	純資産	
		株主資本 評価・換算差額等 新株予約権

#### 6.株主資本

- ・ 資本金（株主から払込みを受けた資本）
- ・ 資本剰余金（調達した資金などのうち、会社法により準備金として積立が強制されている留保分と、それ以外の留保分）
- ・ 利益剰余金（事業活動で得た利益のうち、会社法により準備金として積立が強制されている留保分と、それ以外の留保分）
- ・ 自己株式（取得した自己株式のことで、純資産から差し引く額）

#### 7.評価・換算差額等

- ・ その他有価証券評価差額金、繰延ヘッジ損益など

#### 8.新株予約権

- \* 会社に対し新株式の発行を請求できる権利。